【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和８年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	神埼市立脊振小学校

1　前年度評価結果の概要

・せふりタイムや自主学習の推進、充実、個に応じた学習指導の工夫により、基本的な知識・技能の習熟を図った。これまで以上に読書の習慣化を図りながら、基礎、基本の徹底を充実させる。
・総合的な学習の時間を中心に、山村留学でのアピールや緑の少年団の体験活動を通して、地域を誇りに思う気持ちを育んできた。今後も、地域に貢献できる発信型の学校を、児童、地域住民とともに創る。
・「ほめて伸ばす」を全職員の合言葉とし、様々な場面で自己肯定感、自己有用感の醸成に取り組んだ。トライ＆エラー＆トライを重ねる骨太な子どもを育む。

2　学校教育目標

～地域とともに～　脊振を愛し　進んで学ぶ　たくましい子どもの育成

3　本年度の重点目標

①　自ら学ぶことと、目標に向かって努力することの大切さを実感させる。
②　学校運営協議会と連携・協力した脊振カリキュラムを通して、地域や学校を誇りに思う気持ちを高めさせる。
③　全ての学習と活動の目標・目的を明らかにし、成果や過程を価値づけて自主性を育てる。

4　重点取組内容・成果指標　／　**中間評価**　／　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
●学力の向上	○指導方法の工夫・改善、ICT利活用等を図り、学ぶ楽しさを実感する授業の実現を目指す。 ○読書活動を推進し、語彙の獲得や表現力の向上を目指す。	○児童対象のアンケートにおいて、「話し合う活動を通じて、自分の考えを広げ深めることができる」、「タブレットを用いて、自分に合った学び方を選ぶことができる」と回答した児童80%以上 ○一人年間貸出冊数の目標を達成した児童85%以上	・対話的な活動の充実と「脊振小授業スタイル」の確立を目指す。 ・一人一台端末を適切に用いて、児童が自分に合った学び方（ペース・教材・方法）を身に付けることができるようにする。 ・朝の時間、給食後などに読書の時間を設定する。 ・朝読書だけでなく、空き時間などにも積極的に読書の時間を取り入れるようにし、一人年間貸出冊数の目標を達成させる。	B	・「話し合う活動を通じて、自分の考えを広げ深めることができる」に肯定的な回答した児童は71%で目標値を達成していない。授業において、明確な目的や必要感のある対話的な活動を仕組み、児童が対話するよさを実感できるようにする必要がある。 ・「タブレットを用いて、自分に合った学び方を選ぶことができる」に肯定的な回答した児童は100%で目標値を達成した。今後も継続して取り組む。 ・昨年に引き続き、水曜日の朝の時間と給食後の待ち時間を読書時間に設定した。今後も、読書活動の充実を図り、目標を達成できるように、読書への啓発を続けていく。		・		・	研究主任 研究副主任 図書館教育主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○神埼市の「四か条の誓い」や脊振小の「石の門の教え」の内容を繰り返し指導することにより、礼儀正しい行動ができる児童90%以上	・人権集会・教室の実施 ・全校で「ぽかぽか広場」（友達の良い行動の紹介）に1年間通して取り組み、定期的に児童からカードを紹介する時間を設け、友達の良さ見つけへの意識を高めていく。 ・「ふれあい道徳」を通じて、保護者や地域の方々にも本校の実践を知っていただく。	B	・「ふれあい道徳」は、一学期に実施していたが、年間を通して計画的に道徳教育を行うことができた。 ・人権教室を実施し、自分の人権・また他者の人権を尊重する気持ちを育んだ。		・		・	人権・同和教育主任 道徳科主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した職員が90%以上	・毎月1回、全職員で児童の様子を共有するための協議会を行い、指導支援の共通理解と方向性の統一を図る。 ・月に1回なかよしアンケートを実施し、気になる児童の早期発見・対応を図り、いじめの未然防止につなげる。	A	・毎月の教育相談連絡会では日々の様子での気付きを共有し、早期対応に繋げることができた。また、学校評価アンケート（職員）においても、なかよしアンケートを用いて未然防止に務めることができた職員が100%であった。 ・生徒指導連絡会で、気になる事案や児童について、些細なことでも職員間で情報交換・共有し、早期対応、未然防止に努めた。		・		・	生徒指導主任 教育相談主任
	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・児童が学習の成果を発表したり、教師が家庭学習の取組を紹介したりするなど、児童の努力を認める機会を設ける。 ・総合的な学習の時間などにおいて自分の夢や目標について考えたり、友達の話を聞く機会を設ける。 ・各種体験活動を教育課程の中に位置付け、活動の目的を明確にする。また、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を設定する。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」に肯定的な回答した児童は100%と目標値を達成した。授業中だけでなく、給食時間等にも児童の努力を認める機会を設けた成果だと考えるため、今後も引き続き取り組む。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童86%と目標値を達成した。今後、総合的な学習の時間などにおいて自分の夢や目標について考えたり、友達の話を聞く機会を設ける。		・		・	総合的な学習主任 生活科主任 縦割り班担当
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒90%以上 ●「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身についている児童70%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○災害時に自分の命を守る行動ができる児童80%以上	・保健体育委員が中心となって、スポーツイベントを開催する。また、休み時間や学校外でも運動や遊びを推奨する声かけを行う。 ・早寝・早起き・朝ごはんに関する保健指導、アンケート調査を行い、望ましい生活習慣の形成を図る。 ・教科等と関連させた防災教育の充実を図る。 ・避難訓練において、児童及び職員の動きの理解を図り、状況に応じた避難を実践させる。	A	・学校評価アンケート（児童）で「早寝早起き朝ごはん」がよくあてはまる・ややあてはまるとの回答が100%であり、引き続き啓発をしていく。 ・避難訓練を行う前に、事前指導を丁寧に行い、活動の意義を理解した上で参加せるようにしたことで、真剣に訓練に取り組むことができた。		・		・	体育科主任 養護教諭 安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・共有の連絡掲示板、週1回の職員連絡会等で、全職員が随時見通しをもって共通理解することで、業務の効率化を図る。 ・定時退勤日の設定で意識向上を図る。 ・担当者だけでなく、チームとして動く組織づくりにより、個々の負担を減らし、年休等を取得しやすい環境作りを行う。	B	・職員全体の時間外在校等時間は、月平均で25時間であった。掲示板などで共有時間を削減し、効率的に進めている成果が見られた。しかし、個別にみると、月40時間を超えている職員もおり、常に業務内容の精選や見直しが必要であると思われる。 ・年休取得については、支え合う風土づくりが感じられ、取りやすい状況といえる。		・		・	教頭・校長
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上 （特別支援教育）	○特別支援教育についての研修を深め、学級の指導に生かしているとアンケートで回答した教職員が90%以上	・特別支援教育に関する研修会を計画的に実施する。 ・家庭、福祉、医療などの関係機関と連携し、必要に応じてケース会議を行う。	B	・前期の間に研修会を実施することはできていなかった。後期に実施することができるように計画を立てる。 ・前期に特別支援関係でケース会議を開くことはなかったが、教育相談の度に教職員全体で確認することができた。		・		・	特別支援教育担当

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組 評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
○地域連携教育の充実	○地域連携力の拡大	○地域の方々との交流活動についてのアンケートで保護者の肯定的回答が90%以上	・HPのイベントギャラリーに、地域関連行事や地域連携教育活動を毎回掲載し、広報面での充実を図る。 ・既存の「人材バンク」を整備するとともに、地域人材を活用した力リキュラムの見直しを行う。 ・交流・体験活動を充実させることで、故郷や学校に誇りをもつことができるようにする。	A	・「学校は、地域や社会の様々な人と一緒に体験する活動を仕組んでいると思いますか。」の問いでは、85%の保護者が肯定的な回答であった。 ・総合的な学習を中心に、体験活動を仕組むことができた。地域の人やモノへの誇りをもって、よさを語る児童が増えている。		・		・	教頭・教務

●…県共通　○…学校独自　◎…志と誇りを高める教育

5　総合評価・次年度への展開

・
・
・